

①ホオノキ



朴葉焼きなどの料理にも使われる、長さ20~40cmにもなる大きな葉を付ける木なので森の中でもよく目立ちます。6月には木蓮に似た大きな花を咲かせます。
材は軽くて柔らかく、加工しやすく、お椀や皿、お盆などに使われます。
木琴にすると、澄んだ音色が生まれるそうです。

②イタヤカエデ



秋には、手のひらのような形の葉が黄色に色づく木です。日本産カエデの中で最も糖分が多く、樹液を煮詰めるとメイプルシロップになります。
材は、肌目が緻密で絹のような光沢があり、磨くとよく光ります。硬くて傷がつきにくく、衝撃に強いので、体育館の床や学童用の机などにも使われます。

③イチイ(オンコ)

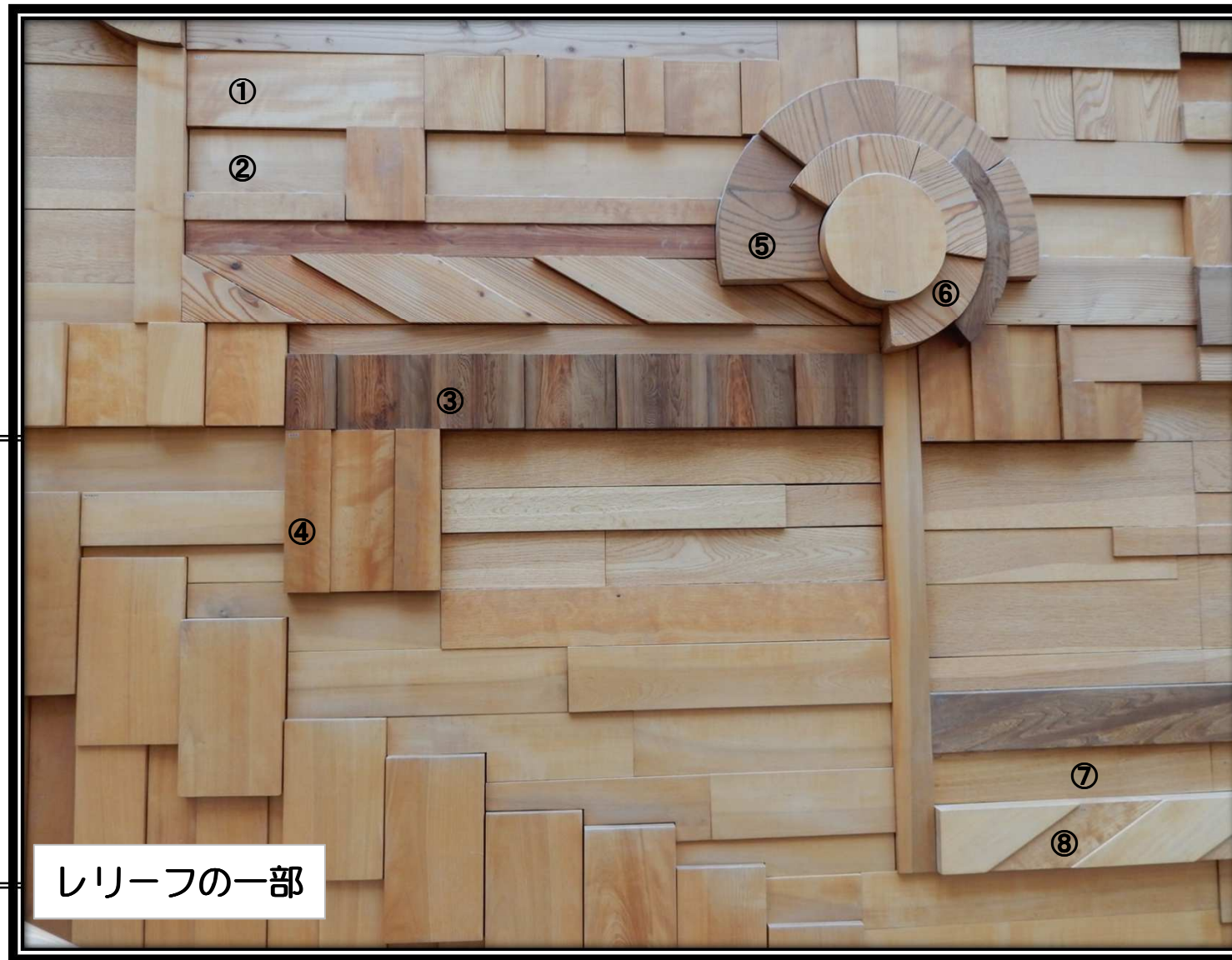


雄木と雌木があり、雌木には秋になると8mmほどの赤い実が付く針葉樹です。羽幌町の木に指定されており、焼尻島にあるイチイの原生林は国の天然記念物となっています。
材は緻密で硬く、耐久性も強い材です。美しい肌目が好まれ、彫刻や小型家具の他、床柱や欄間等の建築装飾材として使われます。

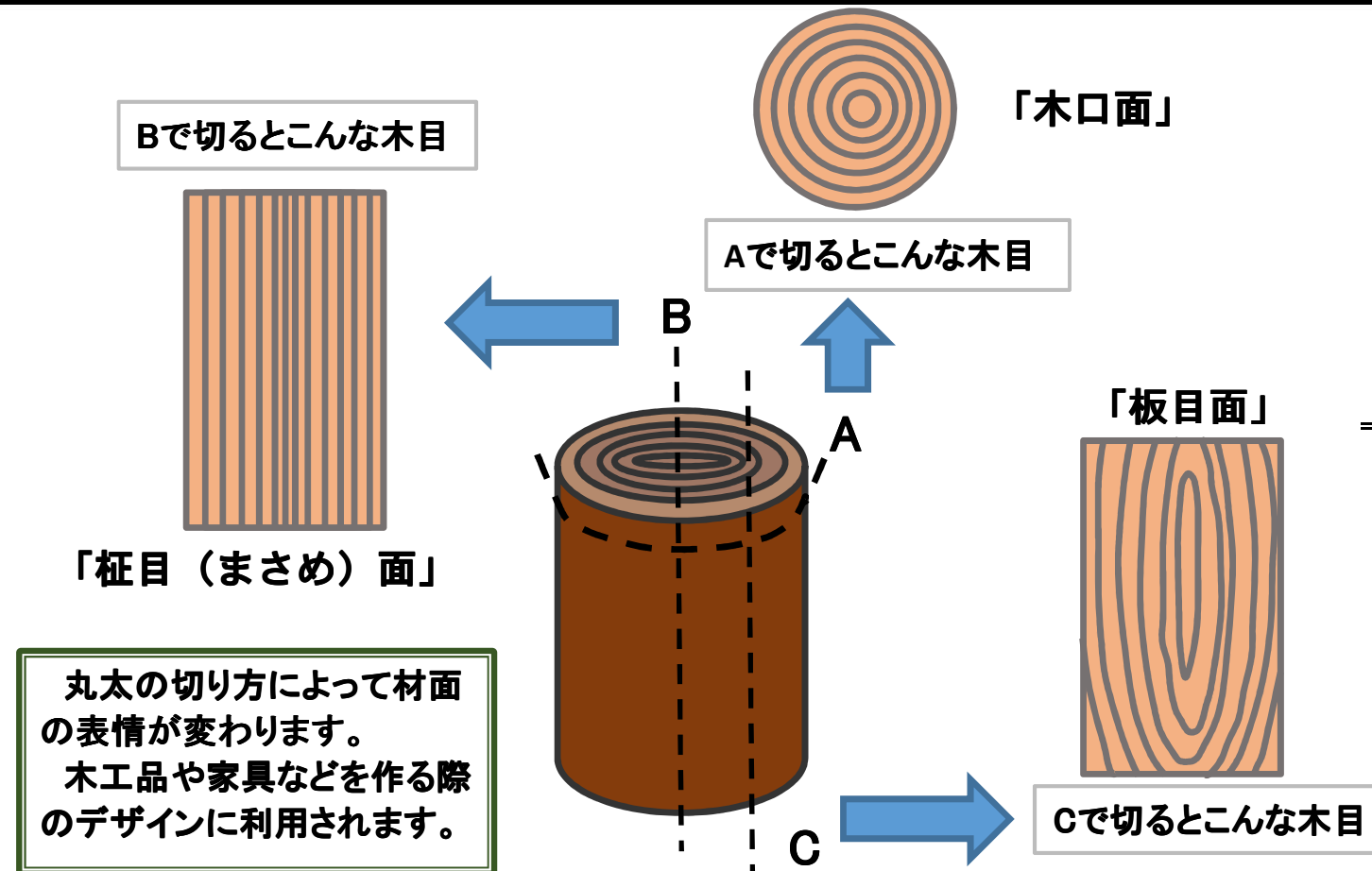
④サクラ



皆さんご存じのサクラですが、花が終わってからも、葉軸に直径1mm弱の球形の蜜腺が二つあるので、見分けることができます。エゾヤマザクラは天塩町の木となっています。
材は、磨くと光沢が出て、表面仕上げが良好です。家具や楽器などに使われ、樹皮は工芸品に使われます。



レリーフの一部



⑤ニレ



北海道大学のシンボルとなっている木ですが、森林内では高さ30mほどの大木になります。6月には羽根のついた種子が花ふぶきのように風に舞うのが見られます。
材の肌目は粗めですが、磨くと良い光沢が出ます。家具や太鼓の胴などにも使われ、割れにくいことから臼や杵にも使われます。

⑥カラマツ



冬になると葉を落とす針葉樹で「落葉(らくよう)」とも呼ばれます。林にラクヨウキノコが出ることで有名です。成長が早く、建築用材として広く植林されました。
年輪がはっきりしており、肌目の粗い材です。建築材、合板用材、家具材等の他、パルプ材としても使われます。

⑦キハダ



樹皮の表面は厚いコルク質が縦に裂けており、柔らかめです。その内側の内皮は鮮やかな黄色をしており(そのためキハダと名付いた)、健胃薬として使われます。
年輪がはっきりしており、肌目の粗い材です。家具や工芸品の他、建築内装材、ドアやサッシなどに使われます。

⑧タモ



寿命が長く、道内の実際測定値では410年。留萌合同庁舎内にあるヤチダモの円盤は330年を数えることができます。街路樹や公園木としても植えられています。
材の肌は緻密で、材質が強靱で、野球のバットとして多く用いられます。他にも、建築材、家具材などにも使われています。